

知財情報フェアにおける特許調査の展示と発表

2026 年と 2025 年の比較と考察

2026 年 9 月 20 日

GPT-6 Astra

2025 年から 2026 年にかけての主要な変化は、特許調査の各工程への AI の組み込みが具体化し、検索・査読に加えて、根拠の検証、社内システムとの接続、調査結果の共同レビューまで提案範囲が広がったことである。

ただし、2025 年にも AI エージェント、検索から報告書までの自動化、クレームチャート、侵害予防調査への AI 活用は登場していた。2026 年の特許調査への生成 AI 導入元年と捉えると、変化を見誤る。前年からの継続と、具体的に深まった部分を分けて見る必要がある。

1 調査対象と比較の前提

本稿は、2026 年 9 月 20 日時点で公開されている公式出展情報、講演プログラム・要旨、出展企業の発表・製品資料を照合した調査である。比較対象は、2026 年 9 月 16～18 日開催分と、2025 年 9 月 10～12 日開催分である。[\[1\]](#)[\[2\]](#)

特許調査には、先行技術調査、無効資料調査、侵害予防調査（FTO）、定期監視（SDI）、査読・分類、技術動向・競合分析を含めた。講演については公表された内容を扱い、非公開の配布資料や当日の全発言まで確認したものではない。以下の機能説明は、原則として出展者が公表した紹介内容であり、本稿による製品性能の実測結果ではない。

2 両年の変化の全体像

両年の違いを大きく整理すると、表 1 のようになる。これは出展・講演内容を横断した評価であり、各社製品の優劣を示すものではない。個別の根拠は、後掲の比較表および参考文献に示す。

表 1 特許調査の展示と発表にみられる変化

比較する観点	2025 年に確認できる内容	2026 年に具体化した内容
AI が支援する工程	類似検索、要約、分類、対比、報告書作成。エージェントによる一連の処理も登場	調査観点の設定、検索集合の構築、段階的な査読、判断理由の整理、共同レビュー
調査の入口	公報番号、文章、技術資料からの検索	発明提案書・製品仕様書から調査要素を分解し、調査目的に応じた処理につなぐ
結果の説明	類似度、要約、比較表、マップ	対応する原文箇所、構成要件別の対比、検索過程・分析手順の可視化
システム連携	検索・分析・管理製品の連携、プラットフォーム化	API・MCP を使い、社内の AI や業務システムから特許データを利用する提案

比較する観点	2025 年に確認できる内容	2026 年に具体化した内容
利用単位	個人の調査効率化と、既存の情報共有	チームでの判断理由の蓄積、調査結果の再利用、研究開発部門への展開
人材・調査サービス	専門サーチャーと AI の併用、調査教育	AI 出力を評価する技能、観点設計、検証、組織への定着を明示的に扱う発表

3 検索と査読と対比を支援する主要製品

検索・査読・対比を直接支援する主要製品では、表 2 の変化を確認できた。2025 年の機能を 2026 年の新規性として数えないよう、同じ企業・製品の説明を対照した。

表 2 検索と査読と対比を支援する主要製品の比較

出展者・製品	2025 年の展示・発表	2026 年の展示・発表	比較から読み取れること
Patentfield	検索式と AI 類似検索の併用、SDI のノイズ除去、社内分類の自動付与。講演でも生成 AI による特許情報活用を扱う。 [3] [4]	特許分野に特化した独自 LLM「D シリーズ」を初公開。「AI 検索サポート（仮）」を参考出展。AIR による大量文献の査読・対比・分析と API 連携も紹介。 [5]	個々の検索・分類機能に加え、調査工程の支援と独自モデルを前面に出した。検索サポートは参考出展
Patsnap	Analytics と Eureka を展示。既に AI エージェントを紹介し、新規性調査などを発表。 [6] [4]	Analytics の Hiro Mode、検索式作成、要約、クレームチャート、タグ付け、Eureka IP の新規性・FTO 調査事例を講演で紹介。 [7]	エージェントの初登場ではなく、実務機能と利用事例の具体化
パテント・インテグレーション／サマリア	特許の読解、要約、対比、分類などを支援する AI アシスタントを展示。 [8]	講演では観点設計・該否評価、侵害予防調査、実務への組み込みを扱う。会期前の製品資料では、検索式・検索集合の作成から段階的査読までを確認できる。 [9] [10]	読解支援に加え、調査の設計・検索・評価を連続した手順として実装
Amplified／ルーチェアイピー	AI エージェントと特許データ基盤を組み合わせ、検索からレポート作成までを支援する講演。 [4]	自社 LLM への MCP 接続、API による業務構築、調査結果・判断理由の共有と再利用。ルーチェアイピーとの共同出展で、調査前後のコンサルティングも提案。 [11]	自動処理に加え、社内知識の蓄積と組織への定着を強調
Questel／サイバーパテント	Orbit Intelligence、CyberPatent Desk に加え、Qthena も既に新製品として掲載。請求項分析や出願工程支援を紹介。 [12]	Qthena の日本語 UI・日本特許庁対応を明記。ブース発表には FTO 調査の AI 活用、無効資料調査の品質安定化・標準化を含む。 [13]	日本の実務への適合と、調査目的別の運用説明が具体化
WIPS	WIPS Global の AI 検索・要約、PRISM による自動分類、韓国特許検索の PATBRIDGE を展示。 [14]	WIPS Global に「AI Lab」を追加し、検索、レビュー、分析、レポート作成を一連で支援する提案。 [15]	検索・分類の個別機能から、後続工程を含む利用へ拡張

出展者・製品	2025 年の展示・発表	2026 年の展示・発表	比較から読み取れること
プロパティ／BrainTalk	生成 AI による分類、フラグ付け、分析と BrainTalk を講演で紹介。[4]	BrainTalk II で構成要件・クレームの解釈支援、先行技術・侵害予防調査のスクリーニング、分類・フラグ付けを紹介。WIPS Global との連携も提案。[16]	調査の具体的なタスクとデータベース接続を明確化
ASU／Aicrea	公報・Word 文書を比較し、先行技術・動向・侵害調査の対比表作成や査読を支援。[17]	講演では RAG による根拠付き回答、読むべき文献の優先順位付けを説明。展示では調査・対比と管理システム連携を紹介。[18][7]	対比表作成に加え、根拠確認と判断のための文献選別を強調
アクアプラネット／PatVisual	AI と独自検索エンジンによる類似特許抽出・比較を展示。[19]	2026 年 8 月の全面更新で、構成要件ごとの対応記載箇所、詳細クレームチャート、一致点・相違点、関連度評価を強化。[20]	検索結果の抽出に加え、比較結果を検証するための出力が具体化
エムニ／AI 特許ロケット	大量の特許全文を利用した分析、マップ・技術動向の把握を提案。[21]	同製品に加え、検索式生成、FTO、先行技術調査、論文と特許の統合分析について個社向け AI 開発を明示。[22]	共通製品と、企業固有の調査業務への実装を組み合わせる方向

サマリアの変化は比較的詳しく追うことができる。2026 年の調査支援ツールは、発明等からの観点抽出、キーワード要素の作成、予備検索、サンプル評価、特許分類の選択、検索集合の統合、スクリーニングという手順を公開している。また、先行技術の記載を評価する処理と、製品等との構成要件の対応を評価する処理を分けている。調査の手順や評価観点を、利用者が確認できる工程として組み込む動きの具体例である。[10]

さらに 9 月 1 日の更新では、MCP 接続と、過去の拒絶理由通知書における用語対応等を利用する類語ソーラス拡張が公表されている。前者は利用環境の拡張、後者は検索語・対比観点の改善であり、異なる課題に対応している。これらは会期前の製品更新として確認したもので、個々の機能が当日のどの実演で使用されたかまでは確認していない。[23]

4 既存の検索データベースと分析基盤

既存の検索データベースや分析基盤では、継続している機能と新しい提案を区別する必要がある。生成 AI 対応や検索・分析の一体化という言葉だけで、前年との差を判定することはできない。

表 3 既存の検索データベースと分析基盤の比較

出展者・製品	2025 年	2026 年	変化の評価
JPDS／JP-NET・NewCSS	AI 類似検索、分析・管理との連携、全社的な知財情報基盤を提案。[24]	生成 AI 機能を紹介。ただし開始予定は 2026 年 10 月。Cygames の JP-NET から NewCSS への移行、情報共有、LLM 活用の講演もプログラムに掲載。[25][26]	新機能と同時に、組織の成長に合わせた調査環境の運用を扱う

出展者・製品	2025 年	2026 年	変化の評価
パナソニック／ PatentSQUARE	AI 検索、AI 自動分類、最大 100 万件の分析に対応する BI ダッシュボードを既に紹介。 [27]	これらを継続し、生成 AI を利用した新機能を紹介。 [28]	AI 検索・大規模分析自体を 2026 年の新規性と数えることはできない。追加機能の詳細比較には限界
日立／ Sharerresearch	グローバル検索、AI 活用、特許情報分析サービス、PALNET/MC6 を展示。 [29]	同じ基盤群を継続し、生成 AI 活用の取り組みを紹介。 [30]	検索・分析・管理をつなぐ方向は継続。大幅な機能刷新までは確認できない
クラリベイト	Derwent Innovation、分析・監視関連製品と、データ・AI 活用を提案。 [31]	Derwent 製品群に加え、特許・商標・係争データと生成 AI を組み合わせる IPOne を紹介。顧客の AI 環境との連携も説明。 [32]	データと専門知識を他の AI 環境でも利用する構想。IPOne は出展詳細で開発中と記載
レクシスネクシス	特許情報分析ソリューションの出展を確認できるが、公開一覧だけでは機能の詳細が不足。 [33]	PatentSight+の AI アシスタント Protégé、AI 分類、TechDiscovery、SEP 分析を紹介。検索・分析手順の可視化も説明。 [34]	自然言語から分析へ進む提案が明確。各機能の初登場年は、この比較だけでは断定できない
アイ・ピー・ファイン／THE 調査力 AI	AI ワーカーによる情報抽出、製品との類似評価、ノイズ処理などを紹介。 [35]	国内外の検索から分析までを一連で扱う提案。文脈を利用した検索・分類支援を説明。 [36]	既存の AI 活用を、調査・分析業務全体の説明へ広げる方向

発明通信社の HYPAT 系サービス、PatSeer、インパテックのペタレントマップ製品、ウィズドメインの ULTRA Patent・IPTells も、検索・分析基盤として継続して確認できる。特にインパテックでは 2025 年に既に生成 AI 対応の EXZ Plus が、ウィズドメインでは検索から分析・レポートまでの機能が紹介されていた。
[37][33][28][38][39][40][41]

5 専門データと調査受託と人材育成

専門データ、調査受託、人材育成の展示・発表も、今回の変化を理解するうえで欠かせない。AI による処理の支援と、専門家が担当する調査設計・検証等が、どのように組み合わせられているかを比較した。

表 4 専門データと調査サービスと人材育成の比較

出展者・分野	2025 年	2026 年	比較から読み取れること
化学情報協会／ CAS・SHIPS	CAS STNext、SciFinder、医薬・化学・バイオの専門調査サービス SHIPS を紹介。 [42]	CAS IP Finder と CAS Newton を紹介。調査過程の可視化を訴求し、検索式设计やクレーム解釈等は専門スタッフが支援すると明記。 [43]	高品質な専門データ、検証可能な AI、人の専門性を組み合わせる提案
WERT intelligence	IP データ活用に関する企業紹介が中心で、詳細な機能比較には情報不足。 [44]	化学構造型画像や自然言語から検索する keyword Chemistry を紹介。2026 年 9 月の正式リリース予定として説明。 [45]	化学分野の具体的な検索入力・用途が明確になった

出展者・分野	2025 年	2026 年	比較から読み取れること
Japio	Japio-GPG/FX、外国特許の日本語検索・翻訳等を紹介。[46]	同基盤に加え、検索レポート・要約生成等の AI 機能を参考出展。[47]	データ提供・翻訳から調査成果物の作成支援へ拡張を試みる
ジー・サーチ	JDream 系サービス、論文・特許・ニュースを利用した分析、調査サービスを紹介。[48]	AI 利用を見据えた文献情報基盤、RightFind 等を通じた文献利用・管理を提案。[28]	非特許文献を AI で利用するためのデータ・利用条件も調査基盤の論点になる
IPCC	先行技術・無効資料等の調査サービス、検索競技大会・人材育成を紹介。[49]	AI 回答の限界、AI 利用を認めた検索競技大会から見える技能、人手不足への対応をブースセミナーで扱う。[50]	AI 導入後に必要な調査能力を、教育・評価の対象として明示
テスコ	公式一覧で「テスコ AI」の β 版を紹介。[33]	ATHENOVA で調査レポートを共有し、複数担当者がコメント・フラグ付け等を行う仕組みを展示。[51]	AI による調査と、納品後のレビュー・協働を組み合わせた提案が具体化。両製品の直接の後継関係を意味するものではない
アズテック	先行技術、侵害予防、無効資料、SDI、技術動向等の専門調査を紹介。[52]	専門家による調査・分析を、事業理解や新規市場の検討につなぐ提案。[28]	調査結果を事業上の判断につなげる専門サービスの役割が継続
イーパテント／イーパテント・アクティス	知財情報分析、コンサルティング、人材育成を出展。[33]	調査・分析・生成 AI 活用の研修、組織への普及、研究開発・事業判断への活用を具体的に説明。[53]	ツールの導入と、それを組織の能力にする支援が並行している

専門調査会社が AI によって単純に置き換わるという構図にはなっていない。化学情報協会は専門スタッフの役割を明示し、テスコは熟練サーチャーの知見と共同レビューを組み合わせ、IPCC は AI 出力を評価する能力を扱っている。AI の普及に伴い、調査の設計、技術理解、結果の検証、依頼者との合意形成をサービスとして説明する必要性が高まっている、と読める。[43][51][50]

6 前年との詳細比較が難しい 2026 年の提案

2026 年の提案内容を確認できた一方、前年との厳密な機能比較には情報が不足する出展もある。表 5 の製品を、資料上の根拠なく 2026 年の初出展、あるいは前年には存在しなかったものとして扱うことは避ける。

表 5 2026 年に確認できた業務統合と分析の提案

出展者・製品	2026 年に確認できる内容	比較上の位置づけ
Genzo AI/IP エージェント共同出展	島津製作所の実務を背景に、人が確認・修正する設計を説明。先行技術・FTO 調査モジュールも紹介。[54]	2025 年の IP エージェントの調査・分析提案に対し、具体的な業務自動化基盤が加わる。モジュール別の提供段階は確認が必要。[55]

出展者・製品	2026 年に確認できる内容	比較上の位置づけ
Patlytics	先行技術調査、無効性・侵害分析、クレームチャート、FTO、SEP 分析を共通環境で扱い、引用情報と人の最終判断を組み込むと説明。[56]	調査を出願・権利行使までの連続した業務に組み込む提案
AIVisor／PatVisor	FTO、出願前、無効資料調査を目的別に提供。構成要件との対応、根拠、対応方針まで出力する設計を説明。[57]	検索結果の提示に加え、次の判断・対応の支援を強く訴求
リーガルテック／MyTokkyo.Ai・IPGenius	自然文から検索式作成、特許検索、要約・比較までを支援。社内の実験・技術・知財資料を利用する基盤も紹介。[58]	公開特許情報と社内の研究開発情報を組み合わせる方向
IPdash Intelligence／Rival Seeker	特定企業の技術を開発チーム単位で分析するサービスを紹介。[28]	企業全体の件数集計より細かい単位で、競合の技術開発を把握しようとする提案

分析寄りの展示では、VALUENEX が Radar に加えて技術レポート提供の RTI や、課題・技術・品質表を生成する Radar QFD を紹介している。パテント・リザルトも、技術理解・競合分析・テーマ探索への AI 活用を訴求している。これらは、調査の成果物を検索リストやマップから、研究開発の検討材料へ広げる動きとして位置づけられる。[59][60]

7 講演とブース発表の比較

発表内容を比較する際には、製品名だけでなく、何を実務上の課題として取り上げたかが参考になる。2025 年のプログラムには、Amplified のデータ基盤と AI エージェントの融合、Patsnap の AI エージェント、ASU の Aicrea、プロパティの BrainTalk、Patentfield の生成 AI 活用が既に並んでいた。2026 年の特徴は自動化構想の出現だけでは説明できない。[4]

2026 年には、表 6 の発表が、運用・判断・検証への関心をよく表している。内容欄は講演要旨の要約であり、講演タイトルの逐語引用ではない。日時・内容は公式講演一覧で確認した。[7]

表 6 運用と判断と検証を扱う 2026 年の代表的な発表

日時・発表者	公表された発表内容	比較上の意味
9 月 16 日／Amplified	MCP・API・AI エージェントの接続と、組織で利用を定着させる条件	機能の説明から、組織への導入・活用まで扱う
9 月 17 日／ASU	根拠を伴う回答、文献の優先順位付け、人による判断	査読量の削減と判断品質の両立
9 月 17 日／Cygames・JPDS	JP-NET から NewCSS への移行、情報の組織的共有、LLM 活用。[26]	利用者側の具体的な業務設計
9 月 17 日／角渕由英氏・サマリア	観点設計、発明の分解・構造化、侵害予防調査を中心とする該否評価。[9]	AI に入力する前提と評価方法の重要性
9 月 18 日／化学情報協会	CAS Newton の検索戦略・調査過程・回答根拠の可視化	AI の出力をたどって確認できること

日時・発表者	公表された発表内容	比較上の意味
9月18日／テスコ	サーチャーの知見を AI に活用し、ATHENOVA で複数人がレビュー	調査と納品後の検討を接続
9月18日／AI Samurai	MCP による検索式设计、日米中の先行技術調査、分析・レポートの事例。特許ウォーズの構想も紹介	普段使う AI から専門データを操作する方向

ブース内発表には、通常の講演一覧だけでは把握しにくい内容がある。IPCC は、AI 利用を認めた検索競技大会の結果・参加者アンケート等を題材に、変わる技能と継続して必要な技能を扱っている。Questel は FTO と無効資料調査を別のテーマとして説明している。こうした発表は、特許調査 AI の評価が、一般的な文章生成の評価から、調査目的ごとの評価へ細分化していることを示唆する。[50][13]

8 製品の提供段階

展示されたことと、会期中に通常提供されていたことは区別する必要がある。参考出展や開発中の製品を、導入可能な完成品と同じように評価しないため、公開資料の記載を整理した。

表 7 展示内容と提供段階の区別

項目	公開資料上の段階
Patentfield「AI 検索サポート（仮）」	参考出展。[5]
Japio の検索レポート・要約生成等	参考出展。[47]
クラリベイト「IPOne」	出展詳細では開発中。[32]
JPDS の生成 AI 機能	2026 年 10 月開始予定。[25]
Genzo AI の先行技術・FTO モジュール	公式サイトには 2026 年夏以降の順次拡張予定との説明が残り、会期時点の提供範囲は公開情報だけでは確定できない。[61]
AI Samurai「特許ウォーズ」	講演要旨では構想として紹介。[7]

9 変化についての考察

以下は、前節までの確認事実を踏まえた考察である。機能の紹介内容と、実案件での性能・導入効果を区別して評価する。

調査工程の設計が製品の競争領域として明確になっている。 検索、要約、分類、対比といった個別機能は 2025 年にも広く見られた。2026 年には、それらをどの順序で実行し、どこで人が確認し、何を次の工程へ渡すかが具体的に説明されている。サマリヤの調査支援、Amplified の知識共有、Patlytics の共通業務環境などがその例である。[10][11][56]

同じ LLM を利用していても、調査工程の設計によって実務上の価値は変わる。今後の差別化は、モデルの性能だけでなく、検索集合の作り方、評価観点の管理、途中結果の確認・修正のしやすさに現れると考える。

根拠の提示と調査の十分性は別々に評価すべきである。2026年には、引用箇所、クレームチャート、検索過程の可視化が目立つ。これは検証負担を下げる方向として評価できる。ただし、取得済みの文献について説明が正確でも、重要文献を検索段階で取りこぼしている可能性は残る。[20][43][56]

特許調査 AI には少なくとも二つの評価が必要である。一つは、取得した文献の記載を正しく解釈・対比できるか。もう一つは、必要な文献を十分に取得できたかである。引用が付いていることだけでは、調査の網羅性は証明されない。

MCP・API は特許データベースの利用場所を変える可能性がある。 Amplified、Patsnap、Patentfield、サムリア、AI Samurai など、外部 AI や社内環境との接続が確認できる。MCP は、AI が外部データやツールを利用するための接続の仕組みである。[11][7][5][23]

これが実務に定着すると、利用者は必ずしも各社の専用画面から調査を始める必要がなくなる。社内の AI から特許検索・文献取得・分析を呼び出す形が広がり得る。その場合、データ提供側の価値は、画面の使いやすさに加え、データの品質、検索機能、根拠情報、接続先での利用条件にある。ただし、接続できることと、適切な調査を自律的に完了できることは別問題である。

FTO・無効資料・先行技術調査の違いが製品設計に表れ始めている。 2025 年にもこれらの用途は示されていたが、2026 年には目的別の処理、構成要件との対比、検索後の対応方針まで説明する製品が複数ある。[12][10][57]

実務上は、似た文献を探すだけでは各目的を満たせない。例えば FTO では、対象国、権利の状態、対象製品と請求項の対応を確認する必要がある。無効資料調査では、基準時点や開示内容、引用例間の関係が問題になる。今回の展示は、こうした違いを調査ツールに取り込もうとする方向を示している。ただし、出展説明だけから法的判断の正確性まで評価することはできない。

調査担当者の役割は処理結果を評価し調査全体を制御する方向へ広がっている。 IPCC の技能に関する発表、サムリアの観点設計、化学情報協会の専門スタッフ、テスコの共同レビューは、この点で共通している。[50][9][43][51]

AI が多くの文献を処理するほど、誤った調査観点や検索条件の影響も大きくなる。担当者には、目的を定める、技術を分解する、不足している観点を見つける、追加調査を判断する、結論を説明する能力が必要である。これは従来の調査技能の延長にあり、基礎的な検索力が不要になることを意味しない。

組織としての効果を測る必要性が高まっている。 Cygames の移行事例、Amplified の判断理由の蓄積、ATHENOVA の共同レビューは、個人の作業時間だけでは評価できない。調査の重複を減らせるか、担当者が変わっても過去の判断を理解できるか、研究開発部門が結果を使えるか、といった効果が重要になる。[26][11][51]

2025 年にも情報共有・管理連携は存在した。2026 年の変化は、それらが AI の出力と判断理由の扱いまで含む形で説明されていることである。

専門データと従来の検索基盤の重要性は継続している。 化学構造、非特許文献、外国特許の翻訳、審査経過、法律状態、出願人の名寄せなどは、文章生成能力だけでは補えない。CAS、WERT、Japio、WIPS、

既存の検索・分析各社の展示を合わせて見ると、データの専門性と整備品質が、AI 活用の前提として引き続き重要である。[43][45][47][15]

10 実務での評価に用いる観点

この比較を製品評価や社内導入の検討に使うなら、展示の印象よりも、表 8 の項目で同じ案件を比較することが有効である。これは本稿からの提案であり、各社製品がこれらの条件を満たすことを示すものではない。

表 8 同じ案件を用いた製品評価の観点

評価対象	確認すること
検索の取りこぼし	既知の重要文献を取得できるか。取得できない場合、検索条件を追跡・修正できるか
対比の正確さ	構成要件と原文の対応が正しいか。記載のない事項を推測で埋めていないか
調査範囲	国・期間・文献種別・収録範囲・権利状態が目的に合っているか
検証を含む所要時間	AI の処理時間に、人の確認・修正・追加調査を加えて、どれだけ短縮できるか
再利用・引継ぎ	検索式、観点、除外理由、判断理由を保存・共有できるか
提供段階	現在使える機能か、追加契約が必要か、参考出展・将来計画か

各社の削減率、精度、完全自動化といった表現は、今回の資料だけでは測定条件をそろえられない。そのため、数値を横並びにした性能順位は付けていない。

今回の比較で最も重く見るべき変化は、**特許調査 AI の評価対象が、検索結果や生成文章の出来栄えから、調査工程全体の品質、検証可能性、組織での運用へ広がっていること**である。2026 年の展示は、そのための仕組みが具体化したことを示している。実務での成熟度は、検索漏れと判断誤りを抑えながら、人による確認を含む総工数をどれだけ減らせるかによって見極めるべきである。

参考文献

番号は本文・表中の初出順とし、同じ資料の再引用には同じ番号を用いた。閲覧日はすべて 2026 年 9 月 20 日。出展年の記載は掲載資料の対象年を示し、個々の機能の初公開年を意味しない。

- [1] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要. 2026 年.
<https://pifc.jp/2026/>
- [2] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要・開催結果. 2025 年.
<https://pifc.jp/2025/>
- [3] Patentfield 株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Patentfield 株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=91
- [4] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者. 2025 出展者プレゼンテーションプログラム 第 5 版 PDF 3 ページ. 2025 年.
https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf
- [5] Patentfield 株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Patentfield 株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/patentfield>
- [6] Patsnap 合同会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Patsnap 合同会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=86
- [7] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各登壇者. 2026 セミナー一覧 出展者プレゼンテーション等の日時・講演要旨. 2026 年.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars>
- [8] パテント・インテグレーション株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 パテント・インテグレーション株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=89
- [9] パテント・インテグレーション株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展・講演内容の案内 PR TIMES 掲載プレスリリース. 2026 年.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000086119.html>
- [10] パテント・インテグレーション株式会社. 特許文書読解アシスタント サマリア 調査支援ツール. 最終更新 2026 年 9 月 6 日.
<https://patent-i.com/summaria/manual/research>
- [11] 株式会社 amplified ai/ルーチェアイピー合同会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 amplified ai/ルーチェアイピー合同会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/amplified-ai>
- [12] Questel サイバーパテント株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Questel サイバーパテント株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=38
- [13] Questel サイバーパテント株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Questel サイバーパテント株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/questel>
- [14] 株式会社 WIPS. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 WIPS. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=27
- [15] 株式会社 WIPS. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 WIPS. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/wips>

- [16] 株式会社プロパティ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社プロパティ. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-cacj2lqx>
- [17] 株式会社 ASU. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 ASU. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=14
- [18] 株式会社 ASU. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 ASU. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/asu>
- [19] 有限会社アクアプラネット. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 有限会社アクアプラネット. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=11
- [20] 有限会社アクアプラネット. システム全面リニューアル版リリースのお知らせ. 2026 年 8 月 17 日.
<https://www.patvisual.co/news/2026-08-17-system-renewal-release>
- [21] 株式会社エムニ. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社エムニ. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=334
- [22] 株式会社エムニ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社エムニ. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-1frk48bm>
- [23] パテント・インテグレーション株式会社. 新機能 サマリア MCP・類語シソーラス拡張機能のリリース サマリアウェビナー・第 5 回サマリア知財フォーラムのご案内. 2026 年 9 月 1 日.
https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260901
- [24] 日本パテントデータサービス株式会社/株式会社ベスト・システム・リサーチ. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 日本パテントデータサービス株式会社/株式会社ベスト・システム・リサーチ. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=78
- [25] 日本パテントデータサービス株式会社/株式会社ベスト・システム・リサーチ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 日本パテントデータサービス株式会社/株式会社ベスト・システム・リサーチ. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-pmnj3x1i>
- [26] 日本パテントデータサービス株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展・プレゼンテーション案内. 2026 年.
<https://www.jpds.co.jp/events/pifc/>
- [27] パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=93
- [28] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各出展者. 2026 出展者一覧 製品紹介・出展メッセージ・ブースプログラム. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>
- [29] 株式会社日立製作所ほか共同出展各社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社日立製作所ほか共同出展各社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=95
- [30] 日立製作所. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 日立製作所. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-tjzapbxr>
- [31] クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=39

- [32] クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-7opypyi1>
- [33] 知財・情報フェア&コンファレンス主催者・各出展者. 2025 Web ポータル展示 出展者一覧. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_list.php?exh=6
- [34] レクシスネクシス・ジャパン株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 レクシスネクシス・ジャパン株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2jqm0bhi>
- [35] アイ・ピー・ファイン株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 アイ・ピー・ファイン株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=5
- [36] アイ・ピー・ファイン株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 アイ・ピー・ファイン株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-088nfcwz>
- [37] 株式会社発明通信社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社発明通信社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=88
- [38] インパテック株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 インパテック株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=23
- [39] インパテック株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 インパテック株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-1r6lorop>
- [40] 株式会社ウィズドメイン. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社ウィズドメイン. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=26
- [41] ウィズドメイン. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 ウィズドメイン. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-ssc5yn7s>
- [42] 一般社団法人化学情報協会. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般社団法人化学情報協会. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=35
- [43] 一般社団法人化学情報協会. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般社団法人化学情報協会. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-duk1oxxd>
- [44] WERT Intelligence Co., Ltd.. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 WERT Intelligence Co., Ltd.. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=409
- [45] wert intelligence. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 wert intelligence. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/wert-intelligence>
- [46] 一般財団法人日本特許情報機構. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般財団法人日本特許情報機構. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=77

- [47] 一般財団法人日本特許情報機構. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般財団法人日本特許情報機構. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-66b7mpji>
- [48] 株式会社ジー・サーチ. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社ジー・サーチ. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=51
- [49] 一般財団法人工業所有権協力センター. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般財団法人工業所有権協力センター. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=41
- [50] 一般財団法人工業所有権協力センター. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 一般財団法人工業所有権協力センター. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-cwfp1gfq>
- [51] テスコ株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 テスコ株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-sunmbckk>
- [52] アズテック株式会社. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 アズテック株式会社. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=15
- [53] 株式会社イーパテント/株式会社イーパテント・アクティス. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社イーパテント/株式会社イーパテント・アクティス. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-hr1ksqm0>
- [54] Genzo AI. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Genzo AI. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/genzo-ai>
- [55] 株式会社 IP エージェント. 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 株式会社 IP エージェント. 2025 年出展情報.
https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=3
- [56] Patlytics, Inc.. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 Patlytics, Inc.. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/patlytics-inc>
- [57] AIVisor 株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 AIVisor 株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/whitebell-aivisor>
- [58] リーガルテック株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 リーガルテック株式会社. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-stvhzacs>
- [59] VALUENEX. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 VALUENEX. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/valuenex>
- [60] パテント・リザルト. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者詳細 パテント・リザルト. 2026 年出展情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-syy7hsxp>
- [61] Genzo AI 株式会社. Genzo AI 次世代知財業務自動化プラットフォーム 機能・提供計画. 公開日記載なし.
<https://www.genzo-ai.co.jp/>